嘲笑の的になつた

岡崎君のはがき「[illegible]産して殘念だ」の泣言が

過激法流產祝宴の席上で

社會運動「過激」取締法案の流產に成功した全國新聞通信同盟は、野黨各派の有志代議士、貴族院議員諸君との懇親會を昨日午後六時から丸の內中央亭に開會

今後の方策につ

いて協議した後次の申合せを可決して散會した

過激社會運動取締法案と同一又は類似の內容を有する緊急勅令を公布するは帝國憲法の蹂躪と認むよつて吾人は極力これに反對す

この會合に岡崎邦輔君も招待されたがその返事が振つてゐる「私はこの法案が政府提出のものである以上

贊成し通過させ

なければならぬのでしたが殘念ながらとうとうそれが出來なかつたので今この會合に出席することは出來ません」と老鼓の泣き言みたいな文句を並べてゐたところが當の岡邦君

自分のハガキが

滿場嘲笑の中に讀はされたと知つてか知らずか懇親會が散會して一同時に玄關口を出やうとした時にヒヨツクリと自働車の中から出て一同に捉かまつて皮肉を浴びせられ「ヤア、ナニ」と老鼓よろしくのテレ隱蔽を振りまいてコソコソと亭內に入つていつた

無產民觀櫻大會に

光る其筋の眼

貼紙四十餘枚を引剝す 名は花見だが實は過激な宣傳

無產民觀櫻大會と銘を打つて「今九日午前十時を期して同志の徒は上野公園反逆者西鄕銅像前に集合せよ」との貼紙が昨夜來今朝にかけて神田町四谷本鄕下谷神田の五區を中心として各所の電柱揭示板街路樹等に頻繁に貼出され、中には公官省の板塀に迄貼られたのもあつた、加之それは名を觀櫻會に藉るもので、內容は或種の

過激なる宣傳

に出たもの、それに件の貼紙は印刷せずして、半紙には墨汁、原稿用紙には朱のインキのペンを以て同一筆跡で認めてある、然るに本日午前六時本鄕區駒込神明町五丁目の街路に於て檄文貼付中の現行犯人を捉へ、本富士署に拘引すると、右は過般東京監獄を出た抹殺社部上河內秀敏(二三)と判明した、而して同人の自白に據つて本所緑町の某隱れ家に踏込んだが、同會の五名は悉く昨夜來所在を晦まして居るものと判り、今朝捜査に從事すると共に同廳特別高等課では

貼られた檄文

四十一枚を各所より引つ剝がして來た、因に今朝十時半上野署に於ては同署長私服姿で部下の高等係數名と共に西鄕銅像前を警戒してゐたが、殆ど一味は姿を見せない、右に付て特別高等課では「何れも抹殺社員の所業で、團長石黑鋭一(二三)以下の者は西園寺入郎邸の暴行事件で逮捕收監されてゐたのを

漸く此程出獄

したが、盛に宣傳に力めてゐる、首謀者の石黑鋭一は鷲田狂三ヶ黑幕とし、相協力して此方の活動に當つてゐるので夙に油斷が出來ない、鷲田狂二に大方檢束されてゐやうが、石黑は目下搜查中である」と語つたが今夕までには數名の檢束者を出す見込である

過激主義取締

緊急勅令の可否

過[illegible]なる最後を遂げたのは、同法案が名を過激主義取締に藉り、實は有らゆる思想を彈壓し、學者操觚者の言論を脅威せんとする、その狡猾なる政策を看破した[illegible]めであ[illegible]この點に注がれ、取締の目的たる過激社會運動の限界、過激主義の範圍を、何れの程度まで認むべきや否やについて殆んど論究するに至らなかつた。殊に同法案を提出せる當局が、過激主義そのものに對して明確なる知識を有しなかつたことは、同法葬るべしといふ輿論をして一層强硬ならしめた原因の一つである。が既に今日に至つては過激運動取締法案は全く世間から其の姿を沒してゐるのであるから、改めてこれを是非する必要もないやうである。

併し乍ら政府當局は、過激運動を名として、有らゆる思想に壓迫を加ふることに失敗しても、尙所謂過激社會運動そのものを嚴重に取締らんとする意志は、依然として存續してゐると認むべき點が多い。殊に今後の形勢によつては、緊急勅令を發布せんとする底意があるとも傳へられる。是に於てか問題は更に一轉する。即ち過激社會運動は、果して政府當局が考ふる如く、最も嚴重苛酷なる取締を要するものであるか、またこれが取締に關して、敢て緊急勅令を發布するほど社會の狀勢が不安を極めてゐるかといふ事である。

先づ思想に臨むに刑罰を以てするの不可なるは姑く別問題として、我國現下の社會狀態は、未だ過激社會運動者の誘惑煽動に乘るほどの危險に瀕してはゐない。勿論戰後に於ける政府當局の施設が、悉く當を失した爲め物價狂騰の趨勢は依然として熄まず、國民多數の生活は常に脅威を感ずる有樣であり、一面また今の公吏政黨員の腐敗によつて、社會道德は甚だしく紊亂してゐるが、さればとて極めて少數の過激社會運動者の煽動によつて、忽ち社會の根本組織が崩壞するやうな虞は斷じてない。元來社會といひ民衆といひ、輕く容易く運動や宣傳によつて動くものでないのである。若し今後社會の秩序紊亂することありとせば、それは寧ろ社會の根本的缺陷と當局失政の罪に歸しなくてはならぬ。隨つて當局が過激社會運動者を恐るゝのは、全く本末顚倒した話であつて、その取締を講ずるに先立つて、先づ社會的缺陷の匡正と政策の立直しに努力しなければならぬのである。

過激主義者の選擧する主義は總ての社會組織を人類の經濟的生活に歸納し、また此經濟的生活は人類の必然的運命であるといふ、即ち現在の法制、政治、其他總ての社會現象は、悉く人類が是非共通らねばならぬ一つの段階であるとして、宗宿的且宿命的な興味を與へてゐるが、一面に於て此社會組織は、經濟生活の內容が悉く充實し普く發展を遂ぐると同時に、恰も柘榴の決裂するやうに、その[illegible]崩壞し顚覆して、茲に別個の社會組織を新生するといつてゐる。けれどもこの社會の根本組織の變改は、決して經濟生活の充實發展によつて齎さるゝものでなく、却つて人類の無智蒙昧と經濟生活の幼稚なるところにその可能性を有するものである。現に露國と英米の實狀を見れば思ひ半に過ぐるものがある。隨つて露國の局に當るものは、進んで文化的施設に努むると同時に、その國民思想に對しても極めて開放的態度をとり、世界思潮の悉くに觸れしめ、國民文化を向上せしむることが、却つて國家の安全を期する所以で無ければならぬ。

殊に我國としては隣邦露國が赤化せるばかりでなく、支那の如きも、當局の以て危險思想と看做すものが瀰漫して漲つてゐる次第である。即ち支那に於て過激思想の萌芽と見るべきは、大正八年初頭、過激主義が西伯利を侵して間もなく、その宣傳員が上海に潜入したことを以て初めとするが、恰もその當時猖獗を極めた排日運動が[illegible]